

2.5 2016年～2019年論文数及び被引用数の評価等

2020年5月1日現在の人事データベースにおける教員数は、工学領域181名、情報学領域69名、農学領域68名、理学領域75名であり、その中でテニュアトラック教員関係者は、工学領域11名、情報学領域1名、農学領域5名、理学領域1名の計18名がいる。学術誌は、掲載論文の被引用数を学術分野ごとに補正した後、被引用数でランク付けされている。被引用数が上位25%、10%、1%の学術誌に掲載された2016-2019年のテニュアトラック教員の論文数のデータを表5-1に示す。

表5-1 テニュアトラック教員の2016-2019年の総論文数および被引用数が上位25%、10%、1%の学術誌に掲載されたテニュアトラック教員の論文数のデータ (テニュアトラック教員18名) 赤字は領域内順位分布で20%以内の業績数

氏名	R2.4.1 在籍状況	総論文数			総引用数			上位25%学術誌(1)に発表した論文			上位10%学術誌(1)に発表した論文			上位1%学術誌(1)に発表した論文	
		論文数	領域内順位	領域内順位割合%	引用数	領域内順位	領域内順位割合%	論文数	領域内順位	領域内順位割合%	論文数	領域内順位	領域内順位割合%	論文数	領域内順位
日杵 深	工学領域 准教授	24	25/181	13.8	26	87/181	48	2	91/181	50.2	0	105/181	58	0	20/181
堀池 徳祐	農学領域 准教授	6	26/68	38.2	18	38/68	55.9	2	29/68	42.6	1	30/68	44	0	5/68
伊藤 哲	工学領域 准教授	4	128/181	70.7	1	143/181	79	0	137/181	75.7	0	105/181	58	0	20/181
栗井 光一郎	理学領域 准教授	11	14/75	18.6	109	9/75	12	7	11/75	14.7	4	8/75	10.7	0	4/75
木谷 友哉	情報学領域 准教授	3	26/69	37.7	1	29/69	42	0	17/69	24.6	0	14/69	20.3	0	5/69
居波 涉	工学領域 教授	38	13/181	7.2	96	35/181	19.3	15	18/181	9.9	9	12/181	6.6	0	20/181
大西 利幸	農学領域 准教授	14	12/68	17.6	192	6/68	8.8	12	6/68	8.8	9	8/68	11.6	0	5/68
ミゼイクス・ピガンタス	工学領域 教授	44	11/181	6	697	1/181	0.6	13	22/181	12.2	7	15/181	8.3	1	4/181
小野 篤史	工学領域 准教授	29	20/181	11	45	58/181	32	9	31/181	17.1	5	29/181	16	0	20/181
符 徳勝	工学領域 教授	7	99/181	54.7	40	62/181	34.3	4	63/181	34.8	2	51/181	28.2	0	20/181
巖崎根 史洋	工学領域 講師	3	134/181	74	16	104/181	57.4	2	91/181	50.3	1	75/181	41.4	0	20/181
光野 徹也	工学領域 准教授	7	99/181	54.7	17	101/181	55.8	1	116/181	64	1	75/181	41.4	1	4/181
米田夕子	農学領域 准教授	3	39/68	57.3	13	41/68	60.3	1	40/68	58.8	1	30/68	44.1	0	5/68
中塚 貴司	農学領域 准教授	6	26/68	38.2	54	21/68	30.1	5	15/68	22	4	12/68	17.6	0	5/68
田代 陽介	工学領域 講師	10	79/181	43.6	93	37/181	20.4	3	74/181	40.1	2	51/181	28.2	0	20/181
一ノ瀬 元喜	工学領域 准教授	32	18/181	9.9	185	15/181	8.2	22	4/181	2.2	15	3/181	16.6	0	20/181
竹内 純	農学領域 助教	5	31/68	45.6	53	23/68	33.8	5	15/68	22	4	12/68	17.6	0	5/68
有田 祥子	工学領域 助教	5	115/181	63.5	1	143/181	79	0	137/181	75.7	0	105/181	58	0	20/181
			7	7		5	5			6			8		

テニユアトラック教員 18 名の総論文数（共著論文を含む）のグラフを図 5-1 に示す。2016 年から 2019 年の 4 年間にミゼイクス・ビガンタス教員は 44 編、居波 渉教員は 38 編、一ノ瀬 元喜教員は 32 編、小野 篤史教員は 29 編、臼杵 深教員は 24 編の論文を発表しており、研究業績が高い。総論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布のグラフを図 5-2 に示す。これは、テニユアトラック教員が所属しているそれぞれの領域の中の順位分布を示している。上位 10%以内に 3 名（ミゼイクス・ビガンタス、居波 渉、一ノ瀬 元喜）、10-20%に 4 名（小野 篤史、臼杵 深、大西 利幸、栗井 光一郎）の教員がランクされている。

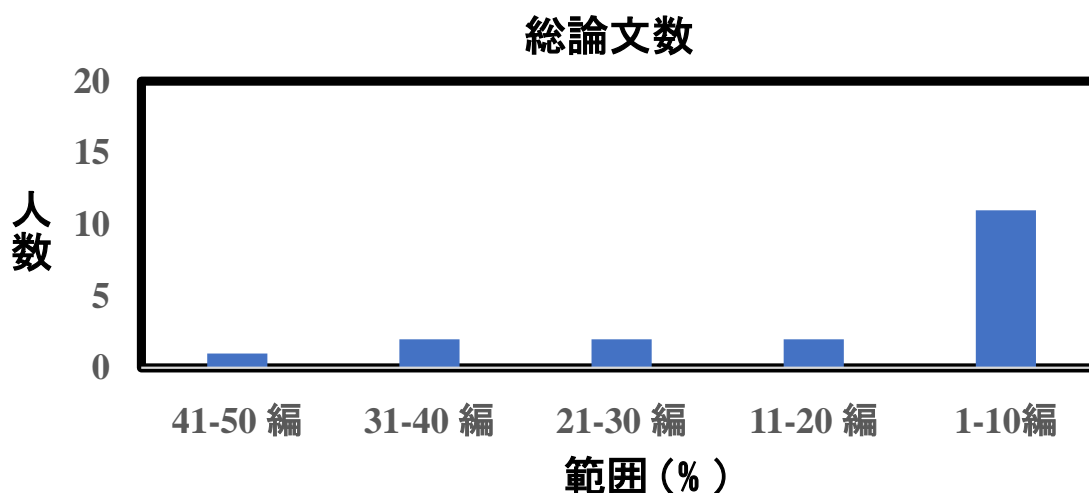


図 5-1 2016-2019 年におけるテニユアトラック教員(18 名)の総論文数(共著論文を含む)

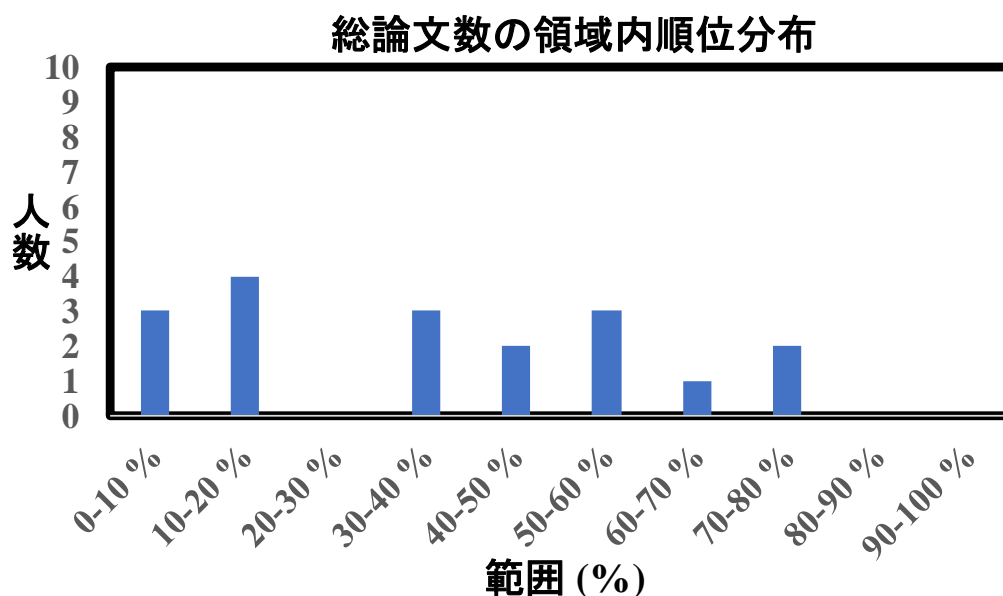


図 5-2 2016-2019 年におけるテニユアトラック教員(18 名)の総論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布

引用数が上位 25%の学術誌にテニユアトラック教員の研究成果が掲載された論文数（共著論文を含む）を図 5-3 に、また領域内順位分布を図 5-4 に示す。一ノ瀬 元喜教員は 22 編、居波 渉教員は 15 編、ミゼイクス・ビガンタス教員は 13 編、大西 利幸教員は 12 編の論文が質の高い学術誌に掲載されている。領域の中でも上位 10%以内に 3 名（一ノ瀬 元喜、大西 利幸、居波 渉）、10-20%に 3 名（ミゼイクス・ビガンタス、粟井 光一郎、小野 篤史）の教員が入っている。

被引用数が上位25%の学術誌に掲載された論文数

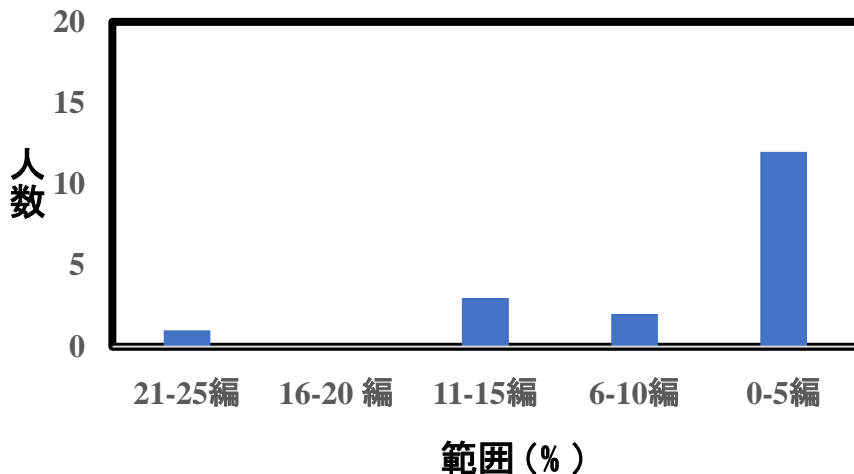


図 5-3 2016-2019 年におけるテニユアトラック 教員(18 名)が、引用数上位 25%の学術誌に掲載された論文数（共著論文を含む）

被引用数上位25%の学術誌に掲載された論文数の領域内順位分布

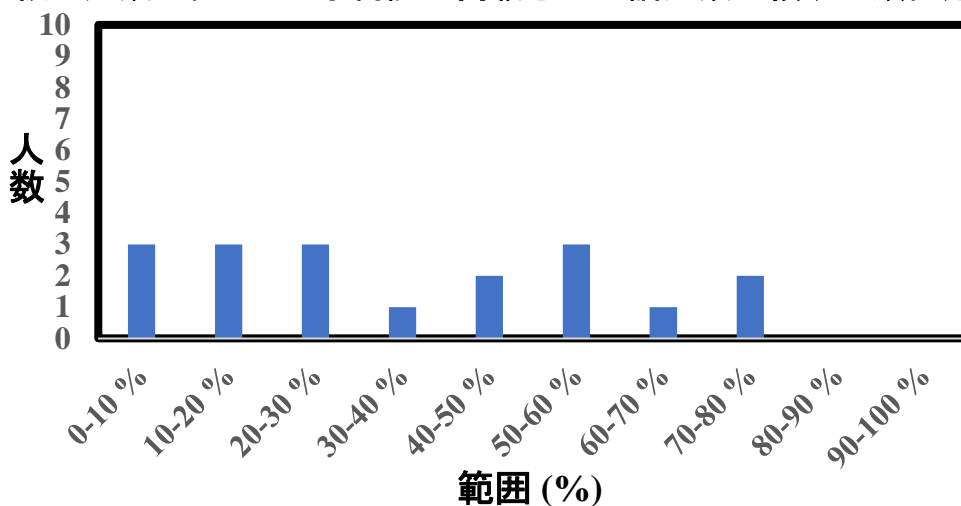


図 5-4 2016-2019 年におけるテニユアトラック 教員(18 名)が、引用数上位 25%の学術誌に掲載された論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布

引用数が上位 10%の学術誌にテニユアトラック教員の研究成果が掲載された論文数（共著論文を含む）を図 5-5 に、また領域内順位分布を図 5-6 に示す。一ノ瀬 元喜教員は 15 編、居波 渉教員と大西 利幸教員はそれぞれ 9 編、ミゼイクス・ビガンタス教員は 7 編の論文が掲載されている。領域の中でも上位 10%以内に 3 名（一ノ瀬 元喜、居波 渉、ミゼイクス・ビガンタス）、10-20%に 5 名(栗井 光一郎、大西 利幸、小野 篤史、中塚 貴司、竹内 純)の教員がランクされており、テニユアトラック教員は高い研究成果を得ていると評価できる。

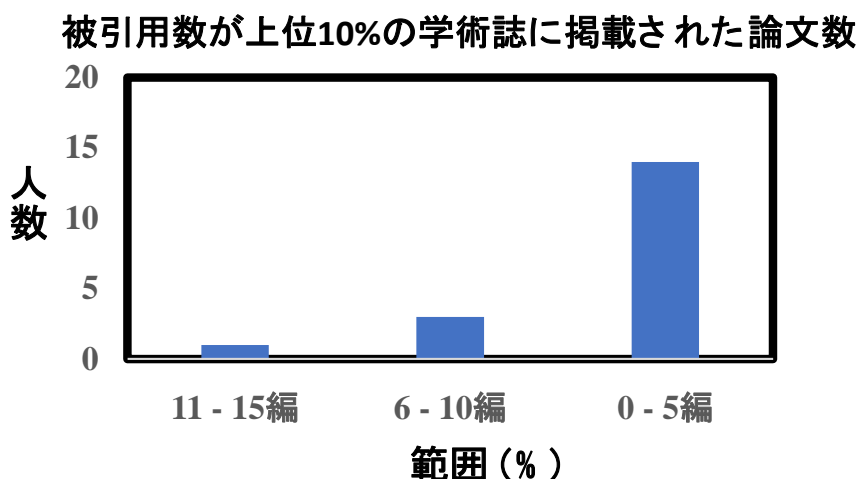


図 5-5 2016-2019 年におけるテニユアトラック教員(18 名)が引用数上位 10%の学術誌に掲載された論文数（共著論文を含む）

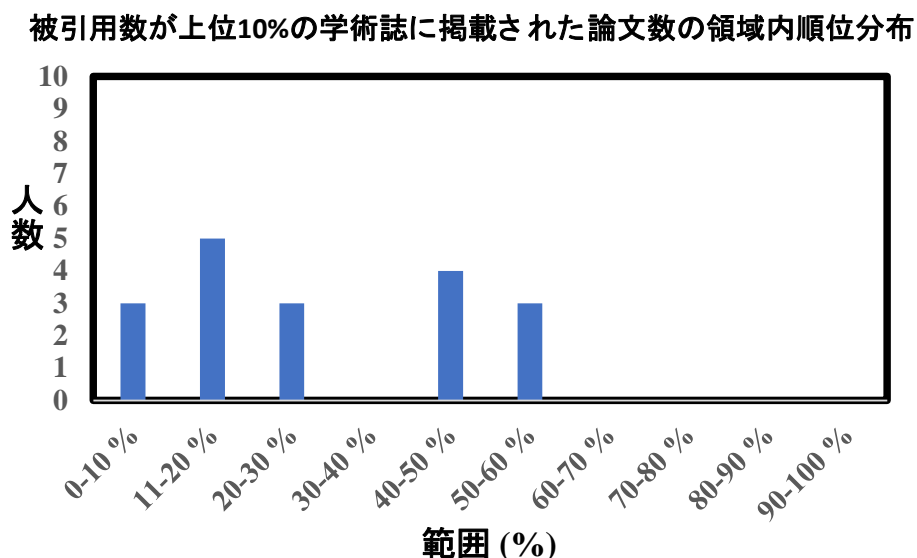


図 5-6 2016-2019 年におけるテニユアトラック 教員(18 名)が引用数上位 10%学術誌に掲載された論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布

さらに、ミゼイクス・ビガンタス教員と光野 徹也教員が引用数上位 1%の学術誌にそれぞれ 1 編論文が掲載されていることは評価できる。

2016-2019 年に掲載されたテニュアトラック教員の論文の総被引用数および被引用数が上位 25%、10%、1%に入っている論文数とその被引用数を表 5-2 に示す。

表 5-2 2016-2019 年に掲載されたテニュアトラック教員の論文の総被引用数および被引用数が上位 25%、10%、1%に入る論文数とその被引用数 (テニュアトラック教員 18 名) 赤字は領域内順位分布で 20%以内の業績数

氏名	R2.4.1 在籍状況	総論文数			総引用数			被引用数が上位25% (2) に入る論文				被引用数が上位10% (2) に入る論文			被引用数が上位1% (2) に入る論文		
		論文数	領域内順位 割合%	領域内順位 割合%	引用数	領域内順位 割合%	領域内順位 割合%	論文数	合計した被引用数	論文数の領域内順位 割合%	領域内順位 割合%	論文数	合計した被引用数	論文数の領域内順位 割合%	論文数	合計した被引用数	論文数の領域内順位 割合%
白井 潔	工学領域 准教授	24	25/181	13.8	26	87/181	48	0	0	104/181	57.5	0	0	53/181	0	0	8/181
堀池 健祐	農学領域 准教授	6	26/68	38.2	18	38/68	55.9	0	0	42/68	61.8	0	0	11/68	0	0	1/68
伊藤 智	工学領域 准教授	4	128/181	70.7	1	143/181	79	0	0	104/181	57.5	0	0	53/181	0	0	8/181
栗井 光一郎	理学領域 准教授	11	14/75	18.6	109	9/75	12	2	66	15/75	20	1	46	9/75	0	0	5/75
木谷 友哉	情報学領域 准教授	3	26/69	37.7	1	29/69	42	0	0	18/69	26	0	0	13/69	0	0	1/69
居波 渉	工学領域 教授	38	13/181	7.2	96	35/181	19.3	1	22	65/181	35.9	0	0	53/181	0	0	8/181
大西 利伸	農学領域 准教授	14	12/68	17.6	192	6/68	8.8	5	105	6/68	8.8	2	65	5/68	0	0	1/68
ミゼイクス・ビガンタス	工学領域 教授	44	11/181	6	697	1/181	0.6	14	632	5/181	2.8	5	566	7/181	1	437	4/181
小野 篤史	工学領域 准教授	29	20/181	11	45	58/181	32	1	4	65/181	35.9	0	0	53/181	0	0	8/181
符 健勝	工学領域 教授	7	99/181	54.7	40	62/181	34.3	3	26	35/181	19.3	1	5	29/181	0	0	8/181
嶋崎 史洋	工学領域 講師	3	134/181	74	16	104/181	57.4	0	0	104/181	57.5	0	0	53/181	0	0	8/181
光野 徹也	工学領域 准教授	7	99/181	54.7	17	101/181	55.8	0	0	104/181	57.5	0	0	53/181	0	0	8/181
米田 夕子	農学領域 准教授	3	39/68	57.3	13	41/68	60.3	1	5	27/68	39.7	0	0	11/68	0	0	1/68
中塚 貴司	農学領域 准教授	6	26/68	38.2	54	21/68	30.1	2	42	19/68	27.9	0	0	11/68	0	0	1/68
田代 剛介	工学領域 講師	10	79/181	43.6	93	37/181	20.4	2	32	45/181	24.9	0	0	53/181	0	0	8/181
一ノ瀬 元喜	工学領域 准教授	32	18/181	9.9	185	15/181	8.2	10	126	9/181	5	3	48	13/181	0	0	8/181
竹内 美	農学領域 助教	5	31/68	45.6	53	23/68	33.8	3	32	15/68	22	0	0	11/68	0	0	1/68
有田 祥子	工学領域 助教	5	115/181	63.5	1	143/181	79	1	1	65/181	35.9	0	0	53/181	0	0	8/181
			7	7		5	5				5						

テニユアトラック教員 18 名の総被引用数のグラフを図 5-7 に示す。2016 年から 2019 年の 4 年間にミゼイクス・ビガンタス教員は 697 回、大西 利幸教員は 192 回、一ノ瀬元喜教員は 185 回、栗井 光一郎教員は 109 回、居波 渉教員は 96 回論文が引用されており、研究に対する注目度は高い。引用数（共著論文を含む）の領域内順位分布のグラフを図 5-8 に示す。上位 10%以内に 3 名（ミゼイクス・ビガンタス、一ノ瀬 元喜、大西 利幸）、10-20%に 2 名（栗井 光一郎、居波 渉）の教員が入っている。

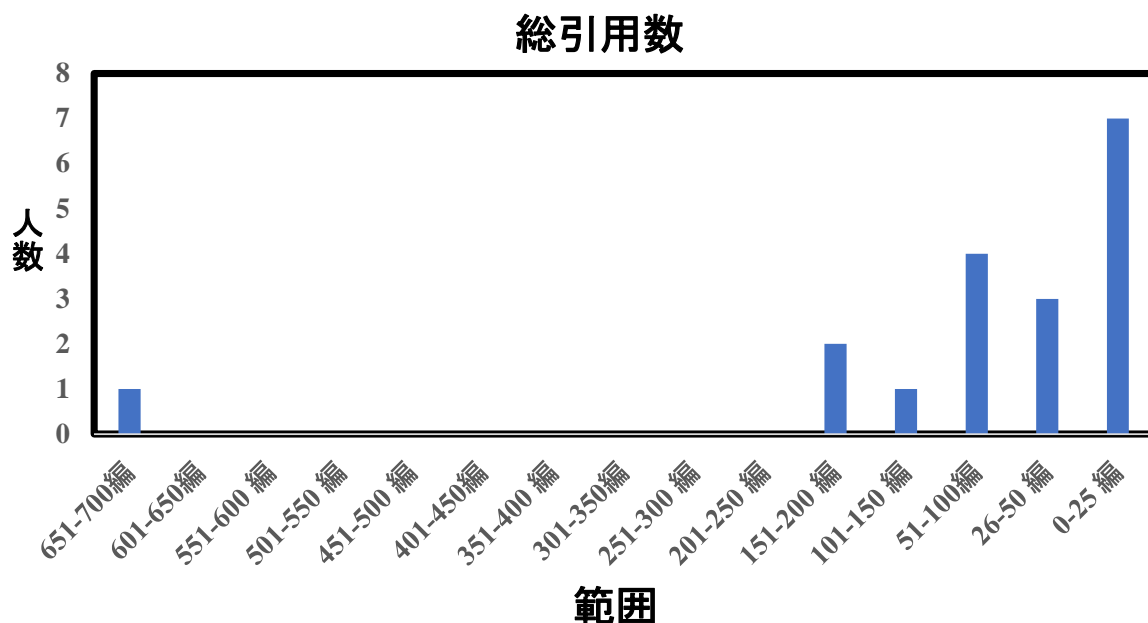


図 5-7 2016-2019 年におけるテニユアトラック教員(18 名)の総引用数（共著論文を含む）

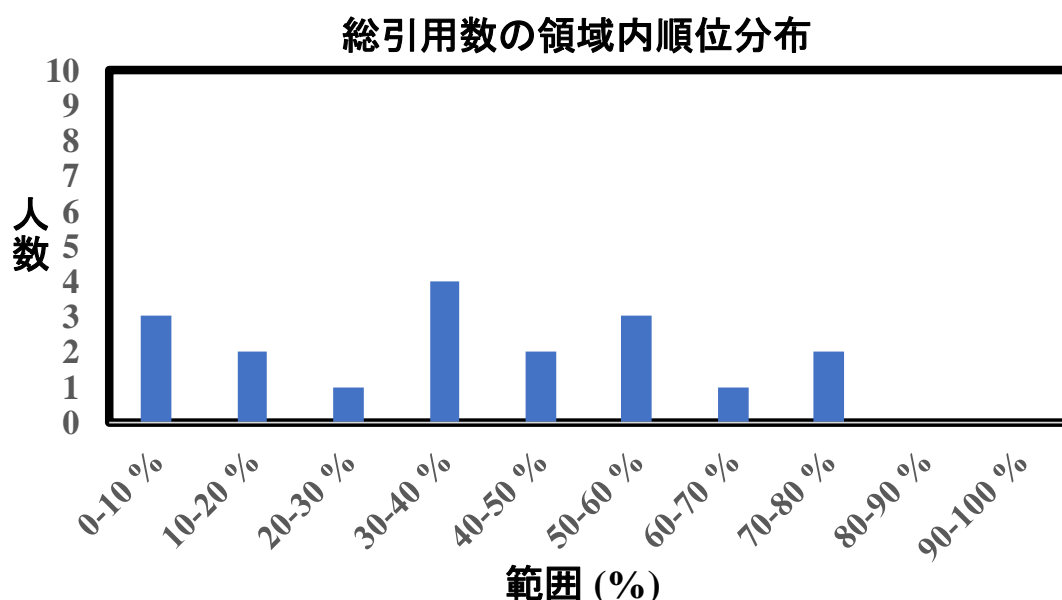


図 5-8 2016-2019 年におけるテニユアトラック教員(18 名)の総論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布

2016年から2019年の4年間に、被引用数が上位25%に入るテニュアトラック教員の論文数を図5-9に示す。ミゼイクス・ビガンタス教員は14編、一ノ瀬元喜教員は10編、大西利幸教員は5編の論文が入っており、研究に対する注目度は高い。被引用数が25%に入る論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布を図5-10に示す。上位10%以内に3名（大西利幸、ミゼイクス・ビガンタス、一ノ瀬元喜、大西利幸）、10-20%に2名（符徳勝、栗井光一郎）教員が入っている。

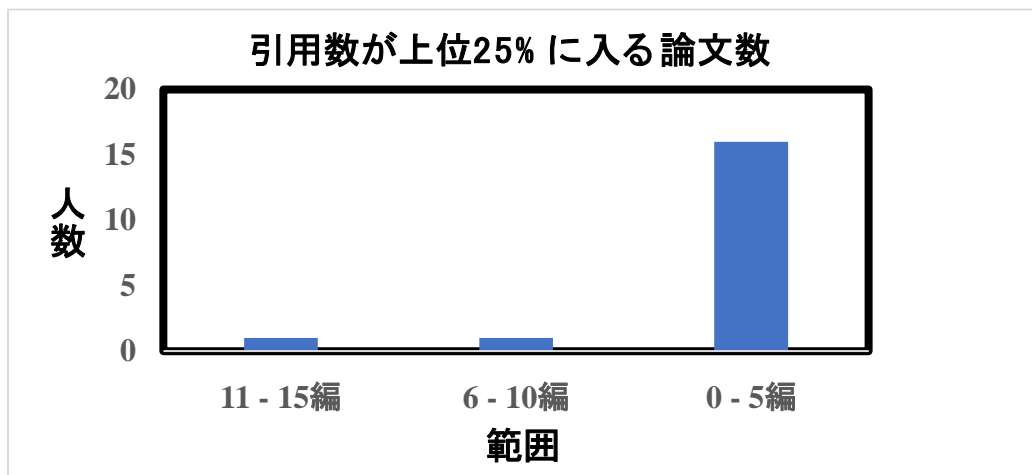


図5-9 テニュアトラック教員(18名)の研究成果が2016-2019年に掲載された論文の中で被引用数が25%に入る論文数（共著論文を含む）

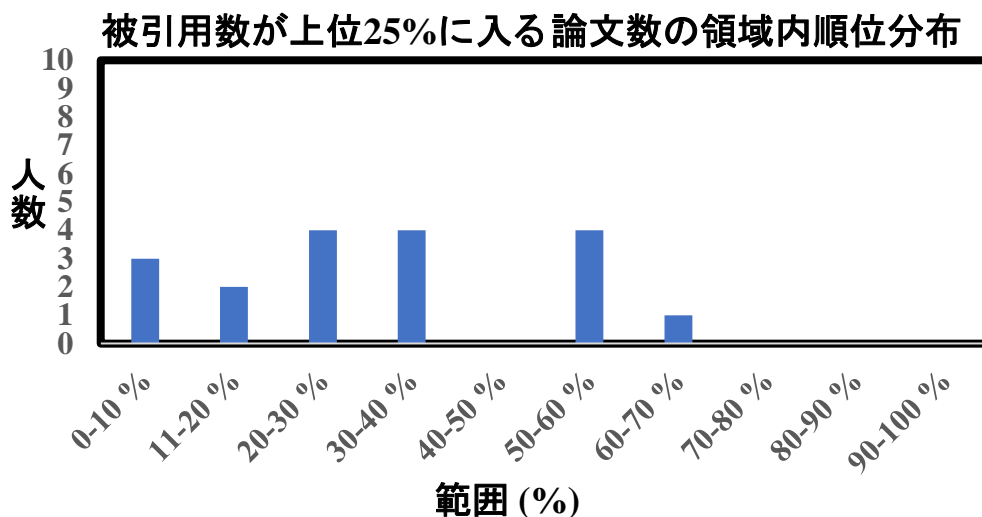


図5-10 テニュアトラック教員(18名)の研究成果が2016-2019年に掲載された論文の中で被引用数が25%に入る論文数（共著論文を含む）の領域内順位分布

2016年から2019年の4年間に、被引用数が上位25%に入る論文の被引用回数を図5-11に示す。ミゼイクス・ビガンタス教員は632回、一ノ瀬 元喜教員は126回、大西 利幸教員は105回、栗井 光一郎教員は66回、符 徳勝教員は26回、居波 渉教員は22回論文が引用されており、論文の注目度は高い。

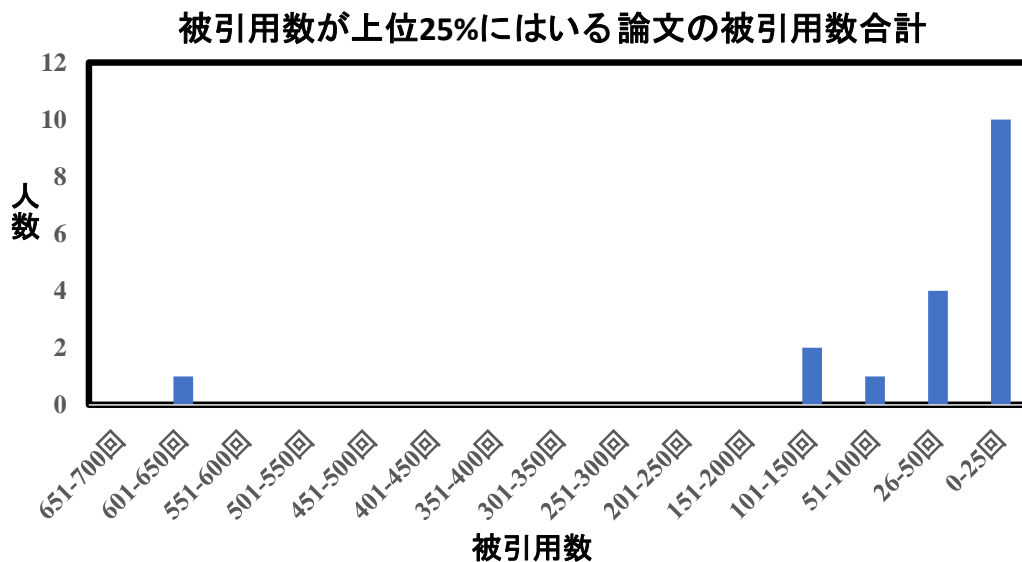


図 5-11 2016年から2019年の間にテニュアトラック教員(18名)が引用数上位25%の学術誌に掲載された論文の被引用回数（共著論文を含む）

テニュアトラック教員(18名)の研究成果が2016-2019年に掲載された論文の中で被引用数が10%に入る論文数（共著論文を含む）を図5-12に示す。ミゼイクス・ビガンタス氏は5編、一ノ瀬 元喜教員は3編、大西 利幸教員は2編、栗井 光一郎教員と符 徳勝教員は1編の論文が掲載されている。

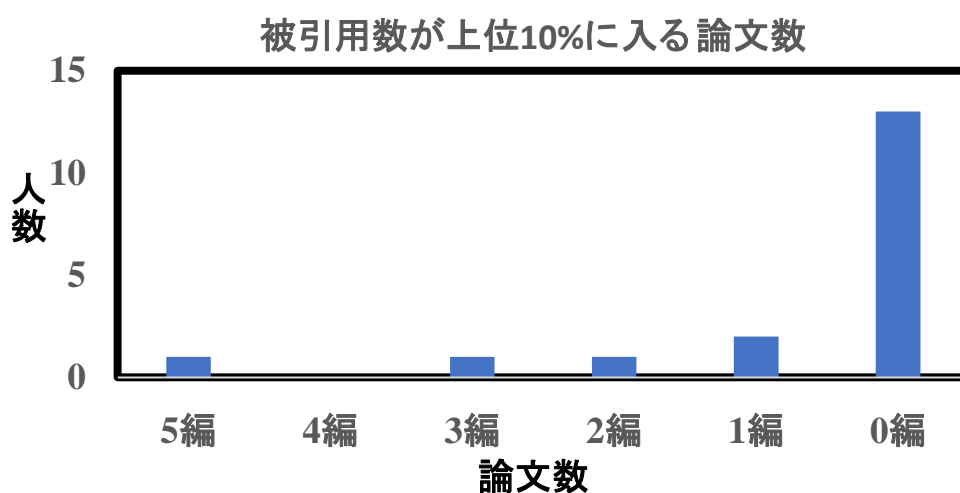


図 5-12 テニュアトラック 教員(18名)の研究成果が2016-2019年に掲載された論文の中で被引用数が10%に入る論文数（共著論文を含む）

特記すべき点としては、共著を除いた論文で被引用数が上位 10% に入る論文をミゼイクス・ビガンタス教員は 2 編、一ノ瀬 元喜教員は 1 編、大西 利幸教員は 1 編、符 徳勝教員は 1 編、発表していることである。論文題目、著者名、雑誌名、巻、号、年、ページ番号を以下に記載する。

ミゼイクス・ビガンタス : 2 編

(1) “Microactuation and sensing using reversible deformations of laser-written polymeric structures”

Rekstyte, S., Paipulas, D., Malinauskas, M., Mizeikis, V.

Nanotechnology, vol.28, No.12 (2017), 124001 (被引用数 32 回)

(2) “Vertical split-ring resonator perfect absorber metamaterial for IR frequencies realized via femtosecond direct laser writing”

Faniayeu, I., Mizeikis, V.

Applied Physics Express, vol.10, No. 6 (2017) 062001 (被引用数 19 回)

符 徳勝 : 1 編

“Local structure analysis of NaNbO_3 and AgNbO_3 modified by Li substitution”

Yoneda, Y., Aoyagi, R., Fu, D.

Japanese Journal of Applied Physics, vol.55, No.10 (2016) 10TC04 (被引用数 5 回)

一ノ瀬 元喜 : 1 編

“Zero-determinant strategies in finitely repeated games”

Ichinose, G., Masuda, N.

Journal of Theoretical Biology, vol.438(2018) 61-77 (被引用数 18 回)

大西 利幸 : 1 編

“ ‘Hidden’ terpenoids in plants: Their biosynthesis, localization and ecological roles”

Yazaki, K., Arimura, G.-I., Ohnishi, T.

Plant and Cell Physiology, vol.58, No.10 (2017) 1615-1621 (被引用数 31 回)

さらに、ミゼイクス・ビガンタス教員は以下の論文が 437 回引用されており、被引用数が上位 1%にはいっていることは高く評価できる。

論文題目、著者名、雑誌名、巻、号、年、ページ番号を以下に記載する。

“Ultrafast laser processing of materials: From science to industry”

Malinauskas, M., Žukauskas, A., Hasegawa, S., Hayasaki, Y., Mizeikis, V., Buividas, R., Juodkazis, S.,

Light: Science and Applications, vol.5, no.8, (2016) e16133 (被引用数 437 回)

3. 特記事項

3.1 静岡大学若手重点研究者リスト

今までのテニュアトラック教員の中で、静岡大学若手重点研究者に選出された教員のリストを表3に示す。2011年4月（平成23年度）から2013年3月（平成25年度）までの第1期静岡大学若手重点研究者には10名全員(臼杵 深、堀池 徳祐、伊藤 哲、粟井 光一郎、木谷 友哉、居波 渉、大西 利幸、ミゼイキス・ビガンタス、小野 篤史、符徳勝)の教員が選出されている。2013年8月（平成25年度）から2016年3月（平成28年度）までの第2期静岡大学若手重点研究者には、2名(臼杵 深、居波 渉)、2016年4月（平成28年度）から2019年3月（平成31年度）までの第3期静岡大学若手重点研究者には、4名(木谷 友哉、大西 利幸、小野 篤史、中塚 貴司)、2019年4月（平成31年度）からの第4期静岡大学若手重点研究者には、2名(木谷 友哉、田代 陽介)の教員が選出されており、期待度は高い。

表3 静岡大学若手重点研究者リスト (テニュアトラック教員18名)

特記事項	期	教員
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	臼杵
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	堀池
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	伊藤
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	粟井
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	木谷
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	居波
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	大西
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	ミゼイスキ
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	小野
静岡大学若手重点研究者称号授与	第1期 (H23. 04. 14~H25. 03. 31)	符
静岡大学若手重点研究者称号授与	第2期 (H25. 08. 01~H28. 03. 31)	臼杵
静岡大学若手重点研究者称号授与	第2期 (H25. 08. 01~H28. 03. 31)	居波
静岡大学若手重点研究者称号授与	第3期 (H28. 04. 01~H31. 03. 31)	木谷
静岡大学若手重点研究者称号授与	第3期 (H28. 04. 01~H31. 03. 31)	大西
静岡大学若手重点研究者称号授与	第3期 (H28. 04. 01~H31. 03. 31)	小野
静岡大学若手重点研究者称号授与	第3期 (H28. 04. 01~H31. 03. 31)	中塚
静岡大学若手重点研究者称号授与	第4期 (H31. 04. 01~R04. 03. 31)	木谷
静岡大学若手重点研究者称号授与	第4期 (H31. 04. 01~R04. 03. 31)	田代

3.2 科学研究費獲得状況（2016年以降-現在）

テニユアトラック教員の2016年以降の科学研究費獲得リストを表4に示す。18名中17名が科学研究費を獲得しており、実績は極めて高い。代表として獲得した科研費は、若手研究(A)が1名(臼杵 深)、若手研究(B)が5名(大西 利幸、光野 徹也、米田 夕子、田代 陽介、一ノ瀬 元喜)、若手研究が2名(竹内 純、有田 祥子)、研究活動スタート支援が1名(竹内 純)の教員がいる。また、基盤研究(B)が4名(木谷 友哉、小野 篤史、中塚 貴司、田代 陽介)、基盤研究(C)が10名(伊藤 哲、栗井 光一郎、木谷 友哉、居波 渉、大西 利幸、ミゼイクス・ビガンタス、符 徳勝、嵯峨根 史洋、中塚 貴司、一ノ瀬 元喜)、挑戦的研究(萌芽)が4名(栗井 光一郎、小野 篤史、中塚 貴司、竹内 純)、新学術領域研究(研究領域提案型)が3名(大西 利幸、小野 篤史、田代 陽介)、国際共同研究加速基金が2名(臼杵 深、田代 陽介)の教員がおり、研究の進展を図っている。

表4 2016年度を含む科学研究費獲得リスト（2016年以降-現在）

教員	種類	研究題目	担当区分	期間
臼杵	挑戦的萌芽研究	三次元顕微計測データを用いた超多重解像度・高精度形状モデル生成に関する挑戦的研究	分担	2014.4～2017.3
臼杵	若手研究(A)	生産・加工現場での高分解能観察を可能にする低コヒーレンス干渉型変調照明顕微鏡	代表	2016.4～2020.3
臼杵	基盤研究(B)	トリム曲面接続の理論解析と計測点群データからの高品質トリム曲面の生成	分担	2019.4～2022.3
臼杵	国際共同研究加速基金	超高分解能観察の実現に向けた近接場光位相共役によるサブ波長ピッチ空間変調照明	代表	2019.4～2022.3
伊藤	基盤研究(C)	z偏光による電子スピン操作	代表	2016.4～2018.3
栗井	挑戦的萌芽研究	光合成膜脂質合成経路を標的としたシアノバクテリア特異的阻害剤の開発	代表	2016.4～2018.3
栗井	基盤研究(A)	光合成生物に広く保存された栄養欠乏時の脂質転換制御とその応用の分子基盤	分担	2018.4～2023.3
栗井	基盤研究(C)	チラコイド膜間pH差維持機構におけるガラクト脂質の役割	代表	2020.4～2023.3

木谷	基盤研究(C)	二輪車車体運動センシングシステムの研究	代表	2014.4~2017.3
木谷	基盤研究(B)	地域型高精度測位インフラストラクチャの構築	代表	2017.4~2021.3
居波	挑戦的萌芽研究	光伝導性基板を用いた仮想流路の形成による高機能光操作法の開発	分担	2016.4~2017.3
居波	基盤研究(B)	ファイナブル解析のための電子線励起発光顕微鏡の開発とその応用展開	分担	2016.4~2019.3
居波	基盤研究(C)	微分位相コントラスト超解像顕微鏡の開発とその応用	代表	2016.4~2019.3
居波	挑戦的研究(萌芽)	単一イオンチャンネル観察のための電子線検出型イオンセンサーの開発	分担	2018.4~2022.3
居波	基盤研究(C)	電子線励起超解像顕微鏡における蛍光薄膜の厚さの最適化とコントラスト増強	代表	2019.4~2022.3
大西	若手研究(B)	植物ポテンシャルを利活用した新しい酵素機能同定法の構築	代表	2014.4~2017.1
大西	基盤研究(B)	数理解析を基盤とした茶栽培・製造過程での二次代謝産物変動の予測システム化	分担	2015.7~2018.3
大西	新学術領域研究(研究領域提案型)	動物ステロイドホルモンが制御する植物の性分化ロジックの解明 研究課題	代表	2016.4~2018.3
大西	基盤研究(C)	植物防御応答を司る「香り」の配糖化メカニズムの解明	代表	2017.4~2020.3
ミゼイスキ	基盤研究(C)	Infrared micro-sensor based on 3D photonic crystal	代表	2015.4~2018.3
小野	新学術領域研究(研究領域提案型)	ワイドレンジプラズモンフィルタ実装 SOIPIX センサによる可視近赤外イメージング	代表	2016.4~2018.3
小野	基盤研究(B)	偏光場を活用したレーザー光還元法による超微細金属ナノ構造作製技術の開発	代表	2019.6~2022.3

小野	挑戦的研究（萌芽）	光-電子結合系超解像イメージングデバイスの開発	代表	2019. 6～2021. 3
小野	基盤研究(B)	レーザー支援電気泳動堆積およびプラズモン加熱焼結による超微細立体造形法の開発	分担	2020. 4～2023. 3
符	基盤研究(C)	超高感度新規焦電材料の開発	代表	2017. 4～2020. 3
嵯峨根	基盤研究(C)	有機電解液における金属 Mg の電気化学的析出溶解反応に関する基礎研究	代表	2018. 4～2021. 3
光野	特別推進研究	ナノ結晶効果によるエネルギー・環境適合デバイスの革新	分担	2012. 5～2017. 3
光野	若手研究(B)	窒化物半導体マルチサイズディスクアレイによる準レーザー特性発光素子の開発	代表	2015. 4～2018. 3
米田	若手研究(B)	¹³ C 同位体標識リグニンを用いた化学構造と酵素分解の反応速度論的解析	代表	2014. 4～2017. 3
中塚	基盤研究(C)	花模様形成の分子機構の解明	代表	2014. 4～2017. 3
中塚	基盤研究(B)	ユリのゲノム研究基盤を利用した花色・早晚性・香りの解析	分担	2015. 4～2018. 3
中塚	基盤研究(B)	アブラナ科花きの分子基盤の構築	代表	2017. 4～2021. 3
中塚	基盤研究(B)	ユリを始めとする花き園芸植物において花の模様形成に関わる microRNA の解析	分担	2019. 4～2022. 3
中塚	挑戦的研究（萌芽）	植物色素毎の生理機能を特徴付けるモデル植物の作出	代表	2020. 4～2022. 3
田代	新学術領域研究(研究領域提案型)	細菌の浮揚性を司るガス小胞の構造と運動多様性出現機構の解明	代表	2015. 4～2017. 3
田代	若手研究(B)	微生物分泌性ナノ粒子を用いた標的細胞制御技術の基盤構築	代表	2015. 4～2017. 3

田代	挑戦的研究（萌芽）	膜小胞の融合を利用した遺伝子デリバリー系構築	分担	2018. 9～2020. 3
田代	基盤研究(B)	細菌－宿主細胞インターフェースにおける膜小胞を介した感染戦略の機構解明	代表	2019. 4～2022. 3
田代	国際共同研究加速基金	超解像イメージングによる細菌の膜小胞分泌機構解明	代表	2020. 2～2023. 3
一ノ瀬	若手研究(B)	多層動的ネットワークによるパンデミック阻止に資するワクチン接種戦略の解明	代表	2017. 4～2019. 3
一ノ瀬	基盤研究(C)	社会的ジレンマの変動に対応するクラウド型オンライン実験とエージェントモデルの融合	代表	2019. 4～2022. 3
竹内	研究活動スタート支援	イネの ABA シグナル伝達機構を解明するための分子ツールの創製	代表	2016. 8～2018. 3
竹内	挑戦的研究（萌芽）	人工光受容体によるアブシジン酸シグナルの局所的且つ局時的制御	代表	2017. 6～2020. 3
竹内	若手研究	光に安定で且つ代謝されにくい ABA 受容体アゴニスト/アンタゴニストの構造基盤設	代表	2020. 4～2022. 3
有田	若手研究	立体ねじり折り展開宇宙構造物の構造概念の解明と立体モジュラー構造の構築方法の探求	代表	2020. 4～2023. 4

3.3 科学研究費以外の外部資金獲得状況（2016 年以降-現在）

テニュアトラック教員の 2016 年以降の科学研究費以外の外部資金獲得リストを表 5 に示す。10 名が外部資金を獲得している。田代 陽介教員が科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけ）を獲得していることは特記すべき点である。また、小野 篤史教員が科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP 機能検証フェーズタイプと産学共同「本格型」）を獲得している。

表5 科学研究費以外の外部資金獲得リスト (2016年以降-現在)

教員	提供機関	制度名	研究題目	担当区分	期間
粟井	科学技術振興事業団	戦略的創造研究推進事業「藻類・水圏微生物の機能解明と制御によるバイオエネルギー創成のための基盤技術の創出」チーム型研究 (CREST)	好気/嫌気応答時の膜脂質の動態解析	分担	2016.4~2018.3
木谷	日本デジタル道路地図協会	平成30年度研究助成	高精度衛星測位技術を利用したプローブデータとデジタル道路地図の精度及び鮮度向上に関する研究	代表	2018.7~2019.3
居波	科学技術振興事業団	A-STEP ステージI (戦略テーマ重点タイプ)	電子線検出によるイオン分布のナノイメージセンシングシステム	分担	2015.4~2021.3
居波	公益財団法人豊田理化学研究所	豊田理研スカラー	無染色の細胞を高コントラストに観察可能な超解像顕微鏡の開発	代表	2016.4~2017.3
居波	公益財団法人上原記念生命科学財団	研究助成	超解像位相差顕微鏡の開発	代表	2016.4~2017.3
大西	日揮・実吉奨学会	2015年度日揮・実吉奨学会研究助成金		代表	2015.9~2016.9
ミゼイスキ	NATO	NATO Science for Peace and Security (SPS)	Nanostructures for Highly Efficient Infrared Detection	分担	2016.1~2019.12
ミゼイスキ	独立行政法人科学技術振興機構	JST-CREST 戦略的創造研究推進事業	高分子の熱物性マテリアルズインフォマティクス	分担	2019.10~2024.12

ミゼイスキ	NATO	NATO Science for Peace and Security (SPS)	Nanostructures for Highly Efficient Infrared Detection	分担	2016.1~2019.12
ミゼイスキ	独立行政法人科学技術振興機構	JST-CREST 戦略的創造研究推進事業	高分子の熱物性マテリアルズインフォマティクス	分担	2019.10~2024.12
ミゼイスキ	NATO	NATO Science for Peace and Security (SPS)	Nanostructures for Highly Efficient Infrared Detection	分担	2016.1~2019.12
ミゼイスキ	独立行政法人科学技術振興機構	JST-CREST 戦略的創造研究推進事業	高分子の熱物性マテリアルズインフォマティクス	分担	2019.10~2024.12
小野	科学技術振興機構	研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP 機能検証フェーズタイプ)	レーザー照射金属パターンニングによる超高精細・大型透明電極の開発	代表	2018.9~2019.8
小野	公益財団法人天田財団	奨励研究助成	レーザー集光照射光還元反応による超微細金属メッシュ透明導電性膜の開発	代表	2018.12~2021.3
嵯峨根	天野工業科学技術研究所	研究助成	アニオンを反応種としたマグネシウム二次電池用正極材料の開発	代表	2016.9~2017.8
嵯峨根	村田学術振興財団	研究助成	ボロキシンを添加剤に用いた 4V 級マグネシウム/アニオン二次電池の開発	代表	2017.7~2018.6
嵯峨根	戸部眞樹財団	研究助成	高速充放電を可能とする全固体リチウム 二次電池の開発	代表	2017.9~2018.8
嵯峨根	科学技術振興事業団	ALCA-SPRING	無機粒子の効果検討と新規アニオンの開発	分担	2018.4
田代	はましん地域振興財団	地域活動助成	環境浄化に向けたバイオフィルム制御技術の開発	代表	2016.4~2017.3

田代	公益財団法人天野工業技術研究所	研究助成金	微生物を用いた機能性ナノ粒子の革新的生産プロセス構築	代表	2017. 4~2018. 3
田代	公益財団法人浜松科学技術研究振興会	村田基金研究助成	生体親和性ナノ粒子の応用開発を指向したナノ粒子-微生物間相互作用の機構解明	代表	2017. 10~2018. 9
田代	東海産業技術振興財団	東海産業技術研究助成	生体基板への金属ナノ粒子配列制御戦略に基づくプラズモン励起型触媒の創製	代表	2018. 4~2019. 3
田代	豊田理化学研究所	豊田理研スカラ一	光励起型金属ナノ粒子触媒の創製に資する大腸菌腺毛の基板材料開発	代表	2018. 4~2019. 4
田代	服部報公会	工学研究奨励援助金	自己組織化タンパク質を基板とした光励起型金属ナノ粒子触媒の創製	代表	2018. 10~2019. 9
田代	総合工学振興財団	研究奨励金	微生物分泌性アミロイドを利用した金属ナノ粒子触媒の創製	代表	2019. 9~2020. 3
田代	科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけ）	細菌集合体における膜小胞分泌の分子機構解明	代表	2019. 10~2023. 3
一ノ瀬	中山隼雄科学技術文化財団	平成 28 年度助成研究（A-2）		代表	2017. 3
一ノ瀬	浜松科学技術研究振興会	平成 29 年度村田基金研究助成金		代表	2027. 9
有田	公益財団法人マツダ財団	第 34 回マツダ研究助成	柔軟展開宇宙構造物の形状予測手法の探求と折紙展開構造による実証	代表	2018. 9~2020. 3

小野	科学技術 振興機構	研究成果最適展 開支援プログラ ム（A-STEP 産 学共同「本格 型」）	小型レーザーモジュールに よるタッチパネル用次世代 センサフィルム製造装置の 開発	研究者	JST R2. 10. 28 公表
----	--------------	---	--	-----	-------------------

3.4 共同研究実施状況（2016年以降-現在）

テニュアトラック教員の2016年以降の共同研究実施リストを表6に示す。日本だけではなく、外国の大学と共同研究している例もある。件数が少ないが、秘密事項があるため、教員データベースに記載していない共同研究もあると考えられる。

表6 共同研究実施状況リスト（2016年以降-現在）

教員	研究題目	担当区分	相手先	期間
大西	植物由来テルペン配糖体の化学分析	代表	企業等からの受託研究	2016
ミゼイスキ	Infrared micro-sensor based on 3D photonic crystal	代表	出資金による受託研究	2015.4~2017.3
ミゼイスキ	Nanostructures for Highly Efficient Infrared Detection	分担	NATO Science for Peace and Security (SPS) Programme, Universitat Politecnica de Catalunya (Spain), Swinburne University of Technology (Australia), TOBB University of Economics and Technology (Turkey), Vilnius University (Lithuania)	2016.1~2020.6
小野	半導体量子ドットを用いた医療用OCT光源の出力向上に向けたデバイス構造最適化	分担	和歌山大学	2016.6~2017.3
小野	光反応性ポリマーを用いたプラズモン共鳴制御による高感度生体分子検出	分担	大阪大学	2016.6~2017.3
小野	周期構造を有する電極を用いた広帯域近赤外光源の出力効率向上の検討	分担	和歌山大学	2017.1~2018.3

小野	光反応性ポリマーを用いた プラズモン共鳴制御による 高感度生体分子検出	分担	大阪大学	2017.1~2018.3
田代	国際共同研究プロジェクト		英国・ケンブリッジ大学	2016.10~2017.9
田代	超領域際共同研究		英国・ケンブリッジ大学	2018.7~2019.3
田代	国際共同研究加速基金（国 際共同研究強化A）		英国・オックスフォード大 学	2018.7~2019.3
田代	国際共同研究プロジェクト	分担	ドイツ・ユリウスクーン研 究所	2020.4~2022.3
田代	二国間交流事業	分担	イスラエル・ワインツマン 研究所	2020.4~2022.3
一ノ瀬	オンラインビッグデータを用いたインフルエンザパン デミック予測	代表	長崎大学熱帯医学研究所	2019

3.5 受賞（2016年以降-現在）

テニュアトラック教員の2016年以降の受賞リストを表7に示す。15名が受賞している。学会で多くの賞を受賞した教員（木谷 友哉、小野 篤史、田代 陽介、一ノ瀬 元喜）がいる。

表7 受賞リスト（2016年以降-現在）

教員	受賞名	主催	年度
臼杵	精密工学会ベストプレゼンテーション賞	精密工学会	2017
堀池	静岡ライフサイエンスシンポジウム 優秀ポスター賞	静岡生命科学若手フォーラム	2016
栗井	優秀ポスター賞	静岡生命科学若手フォーラム	2016
栗井	優秀ポスター賞	静岡大学三部局共催国際シンポジウム	2016
木谷	WIN2017 Student Award	Informatics Society IWIN 2017	2017
木谷	最優秀学生研究発表賞	測位航法学会 GPS/GNSS シンポジウム 2017	2017
木谷	優秀発表賞	情報処理学会 高度交通システム (ITS) 研究フォーラム 2018	2017
木谷	奨励発表賞	情報処理学会 高度交通システム (ITS) 研究フォーラム 2018	2018
木谷	Excellent Paper Award Enhancing 3D Maps Using RTK-GNSS to Help Improve the Position Solution in Urban Areas	International Workshop on Informatics (IWIN2019)	2019
木谷	学生最優秀研究発表賞	測位航法学会 全国大会	2019
木谷	令和2年 優秀発表賞	高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS) 研究会	2019
居波	第11回情報フォトンクス研究会関東学生講演会優秀発表賞	日本光学会 情報フォトンクス研究グループ	2016
居波	日本光学会「2017年 日本の光学研究」の一つに選ばれた	日本光学会	2017
大西	日本植物細胞分子生物学会 奨励賞	日本植物細胞分子生物学会	2017
大西	バラ香気成分 2-phenyletanol 配糖化酵素の酵素学的解析	一般社団法人 植物化学調節学会	2019

ミゼイス キ	Outstanding poster	OPIC 2018 conference	2018
小野	第 30 回高柳研究奨励賞	浜松電子工学奨励会	2016
小野	Best Presentation Award for the most outstanding presentation	Shizuoka University	2016
小野	Student Paper Awards	APNFO	2017
小野	第 38 回年次大会論文発表奨励賞	一般社団法人レーザー学会	2017
小野	Best Presentation Award	Shizuoka University	2017
小野	第 25 回コニカミノルタ画像科学奨励賞 (優秀賞)	公益財団法人コニカミノルタ科学技術振興財団	2018
小野	静岡大学産学連携奨励賞 (最優秀賞)	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	2018
小野	The ICPEPA Outstanding Student Poster Award 1-st PLACE	ICPEPA	2018
小野	創造科学技術大学院長表彰	静岡大学創造科学技術大学院	2018
小野	Young Researchers Poster Award	Hiroshima University	2018
小野	ITE Open Poster Session Best Poster Award 2nd place	OSJ	2018
小野	優秀発表賞	レーザー学会中部支部	2019
小野	Young Researchers Poster Award	Shizuoka University	2019
小野	創造科学技術大学院長表彰	静岡大学創造科学技術大学院	2019
符	IOP Outstanding Reviewer Awards 2019	IOP publishing	2020
光野	奨励賞	独立行政法人日本学術振興会・光電相互変換第 125 委員会	2016
中塚	第 3 期静岡大学若手重点研究者	静岡大学	2016
田代	日本生物工学会中部支部支部長賞	日本生物工学会中部支部	2016
田代	静岡ライフサイエンスシンポジウムポスター賞	静岡生命科学若手フォーラム	2016
田代	静岡ライフサイエンスシンポジウムポスター賞	静岡生命科学若手フォーラム	2016
田代	Outstanding Student Poster Award the 9th Asian Symposium on Microbial Ecology	The Microbiological Society of Korea	2017
田代	環境微生物系学会合同大会 2017 ポスター賞	環境微生物系学会合同大会	2017
田代	日本農芸化学会中部支部奨励賞	日本農芸化学会	2017

田代	生物物理学会若手招待講演賞	生物物理学会	2017
田代	Outstanding Abstract Award	American Society for Microbiology	2018
田代	日本膜学会学生賞	膜学会	2018
田代	Best Presentation Award at the 5th International Symposium toward the future of advanced researches in Shizuoka University	Shizuoka University	2018
田代	Best Presentation Award Multidisciplinary English Session	日本微生物生態学会	2019
田代	東海化学工業会賞	東海化学工業会	2020
一ノ瀬	Travel Awards for CCS 2019	CCS 2019	2019
一ノ瀬	第9回スポーツデータ解析コンペティション 特別賞 (データスタジアム賞)	日本統計学会	2019
一ノ瀬	第9回スポーツデータ解析コンペティション サッカー部門 優秀賞	日本統計学会	2019
一ノ瀬	第9回スポーツデータ解析コンペティション 特別賞 (データスタジアム賞) サッカーネットワークのアキレス腱	日本統計学会	2019
一ノ瀬	第9回スポーツデータ解析コンペティション サッカー部門 優秀賞 サッカーネットワークのアキレス腱	日本統計学会	2019
竹内	第54回 植物化学調節学会 ポスター賞	植物化学調節学会	2019
有田	Best Presentation Award Design of Space Structure Based on Triangulated Cylindrical Origami	The Japan Society of Mechanical Engineers (JSME)	2018
有田	若手奨励賞 優秀論文	日本航空宇宙学会	2018

3.6 報道 (2016 年以降-現在)

テニユアトラック教員の 2016 年以降の報道リストを表 8 に示す。今後、さらに 新聞等で研究成果を紹介する機会を増やすことが求められる。

表 8 報道リスト (2016 年以降-現在)

教員	分類	題目	掲載日	掲載誌	年度
臼杵	新聞	新聞 製造現場での高分解能観察を可能にする構造化照明顕微鏡	2017/1/6	静岡新聞	2016
臼杵	新聞	新聞 製造現場での高分解能観察を可能にする構造化照明顕微鏡	2017/1/6	日本経済新聞	2016
臼杵	新聞	新聞 製造現場での高分解能観察を可能にする構造化照明顕微鏡	2017/1/10	日刊工業新聞	2016
臼杵	新聞	新聞 製造現場での高分解能観察を可能にする構造化照明顕微鏡	2017/1/10	日経産業新聞	2016
臼杵	雑誌	CAD と計測の融合	2017/4/1	月刊生産財マーケティング	2017
小野	新聞	光、環境分野で研究発表 静大で国際シンポ始まる 浜松	2016/12/9	静岡新聞朝刊	2016
小野	新聞	山本教授に記念賞 高柳賞, 中区で贈呈式 (高柳研究奨励賞受賞者として紹介)	2016/12/13	静岡新聞朝刊	2016
小野	新聞	静大と浜松いわた信金 産学連携研究 (産学連携奨励賞 (最優秀賞) 受賞者として紹介)	2019/3/9	中日新聞	2018

小野	新聞	地域や産業に貢献期待（産学連携奨励賞（最優秀賞）受賞者として紹介）	2019/3/12	静岡新聞	2018
小野	新聞	地域や産業に貢献期待 研究者3人を表彰	2019/3/12	静岡新聞朝刊	2018
有田	新聞	マツダ財団助成 静大研究者2人が選ばれる	2018. 10. 19	中日新聞社朝刊	2018

4. 検証の総括と提言

4.1 検証の総括

2016 年度在籍中のテニュアトラック教員及び 2015 年度以前にテニュアを獲得した教員 18 名の 4 活動分野（研究、外部資金、社会貢献、国際貢献）の業績とそれ以外で採用された教員の業績について教員データベースから比較を行った。

全体、領域(工学、情報学、農学、理学)及び職階（教授、准教授、講師、助教）で調査し、上位 20%以内に位置する教員数を集計した結果を表 9 に示し、調査対象教員の各領域内の業績を以下に示す。テニュアトラック教員は、研究、外部資金と国際貢献で高い業績を上げている。

論文に注目すると、ミゼイクス・ビガンタス教員は 44 編、居波 渉教員は 38 編、一ノ瀬 元喜教員は 32 編、小野 篤史教員は 29 編、臼杵 深教員は 24 編の論文を発表しており、研究業績は高い。また、ミゼイクス・ビガンタス教員は 697 回、大西 利幸教員は 192 回、一ノ瀬 元喜教員は 185 回、栗井 光一郎教員は 109 回、居波 渉教員は 96 回論文が引用されており、高い注目度を得ている。特に、ミゼイクス・ビガンタス教員は被引用数が上位 1%以内（437 回）にランクされている論文を発表しており、これは特記できる成果である。

また、2016 年度以降、18 名中 17 名が科学研究費を獲得しており、実績は極めて高いといえる。研究代表者として獲得した科学研究費補助金は、若手研究(A)が 1 名、若手研究(B)が 5 名、若手研究が 2 名、研究活動スタート支援が 1 名、基盤研究(B)が 4 名、基盤研究(C)が 10 名、挑戦的研究(萌芽)が 4 名、新学術領域研究(研究領域提案型)が 3 名、国際共同研究加速基金が 2 名採択されており、積極的に研究の進展が図られている。

なお、田代 陽介教員が、科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業個人型研究（さきがけ）を獲得していることや小野 篤史教員が科学技術振興機構の研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP 産学共同「本格型」）に採択されていることは特記すべき点である。

さらに、2016 年以降、学会等で 15 名が受賞している。特に、木谷 友哉教員、小野 篤史教員、田代 陽介教員、一ノ瀬 元喜教員は受賞件数も多く活躍が見られる。

また、居波 渉教員は助教で採用されてから、テニュアで准教授に昇任し、現在は教授となっており、テニュアトラック制を利用してステップアップした教員がいることも特記すべきことである。

静岡大学の若手重点研究者に選出された教員も多数に上っている。

以上のことから、本学のテニュアトラック制は、意欲的で能力の高い若手研究者を育成していると評価できる。

表9 全体、領域(工学、情報学、農学、理学)及び職階(教授、准教授、講師、助教)の中で上位20%以内にはいつている教員数

年度	全体(文系も含む)				所属領域				職階(文系も含む)			
	研究	外部資金	社会貢献	国際貢献	研究	外部資金	社会貢献	国際貢献	研究	外部資金	社会貢献	国際貢献
2016年度	4	9	2	7	1	3	3	4	4	8	4	8
2017年度	6	7	1	5	4	5	1	4	6	7	4	6
2018年度	7	5	2	7	7	4	2	6	7	6	3	7
2019年度	5	5	2	6	3	5	1	4	5	6	3	6

2019年度に文部科学省・(独)日本学術振興会の卓越研究員事業を利用して、農学部准教授1名(中村 彰彦教員)が卓越研究員として採用された。8名(竹内 純、有田 祥子、水嶋 祐基、馬 剛、金 鎮赫、中村 彰彦、呉 偉、北村 勇吉)の教員が在籍中であり、農学部助教1名(高山 翔輝氏)が2021年4月赴任予定である。

4.2 提言

以上から、テニュアトラック制は、意欲的で能力の高い若手研究者の育成に有効な制度である。卓越研究員事業やマネージングプロセッサと各部局長との意見交換を踏まえ、以下のとおり提言する。

- 1 第4期中期目標中期計画期間以降について、本学重点研究分野の教員採用は、原則、テニュアトラック制とすべきである。
- 2 テニュアトラック普及・定着事業の事後評価を踏まえ、若手及び年俸制教員の採用増に資するテニュアトラック制を、全部局において進めるべきである。
- 3 第3期中期計画のテニュアトラック制の運営に関する評価を考慮し、テニュアトラック制の教員採用枠は、部局枠で実施するのではなく、当該システム導入当初のように大学全体で確保すべきである。
- 4 テニュア獲得教員には、獲得後の一定期間について研究エフォートを確保するために、非常勤講師の確保支援等が望まれる。

参考

事後評価

- ・若手グローバル研究リーダー育成プログラム(抜粋)

明確な育成方針のもと優秀な若手研究者を採用し育成する制度設計が十分に機能していることは評価できる。今後は、テニュアトラック制(以下、「TT制」という)が人文社会科学系を含めてより多くの部局に普及することを期待する。

- ・テニユアトラック普及・定着事業（抜粋）

当該機関の取組は評価できる。今後も継続的なテニユアトラック制を推進する予定であり、既に継続的な実施をしている理系部局に加え、文系も含めた全学での実施を期待する。